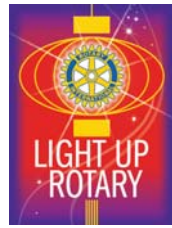




2014～15 年度  
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

# Weekly Report Niigata



## ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度  
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 6 月第 3 例会 (2015.6.16) No.3091

### (1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

### (2) 高橋 秀樹会長挨拶

現在、世界地図と言われたときに、おそらく多くの方が思い浮かべるのは、メルカトル図法による地図かと思います。しかし、実は、この図法は発表された当初はあまり評価されていませんでした。

これを発表したのは通称メルカトル、本名ゲルハルト・デ・クレメル (Gerard De Kremer 1512 年 3 月 5 日 - 1594 年 12 月 2 日) という人物です。彼は、1512 年に現在のベルギーにあたる場所で生まれ、地球儀や時計などの機器の製作から始めて、地図や海図の制作を仕事としていました。

さて、大航海時代の当時、まったく目印のない大海原で、どの方角を目指せば目的の場所に着くことができるのかというのは、生死にかかわる重大な問題でした。正確な地図が命綱でしたが、しかし地球は球体ですから、これを平面の地図の上の絵に変えることにはどうしても無理があります。誰もが不可能だと感じており、メルカトル自身も「円を四角に表現するようなものだ」と語っていましたが、この難問に生涯をかけて挑んだのでした。

彼が目指したのは、船乗りが海図上の二点間に直線を引けば、そのあいだを航行するために取るべき針路が即座に決定できるようなものでした。結論をとっても大雑把に言えば、赤道から離れていくに従って実際の形を拡大していくような変形をすれば、これが可能になります。このような図形の変形には積分法の数学による裏付けが必要なのですが、当時はまだそのそれが知られていなかったため、メルカトルは経験的な職人技によって図像を処理しました。そして、地理的な発見について次々とたらされる最新の情報を吸収しながら、満を持して 1569 年に新しい理論による世界図、つまりメルカトル図法による世界図を発表します。

しかし、当時の船乗りたちはこの地図の革新性が理解できませんでしたし、新しい図法の根拠となる積分法の数学が知られていなかったこともあり、メルカトルの世界図はそれほど高い評価を受けませんでした。むしろ彼らが飛びついたのは、その翌年の 1670 年、ドイツの有力な一族の一員だったアブラハム・オルテリウスという人物が、『世界の舞台』と題して出版した、西洋最初の近代的地図帳でした。当時は、何枚もの地図を巻いて保管するのが一般的で、いくつもの大きな地図を広げたり巻き戻したりを繰り返すのが常でしたが、この手間が面倒だという

当時の人々のニーズに応え、オルテリウスは信頼する地図製作者たちの作品の中から 70 点を選び、各国地図を一定の版型に合うように整えた上で、一冊にまとめて出版したのです。これが凄まじい反響を呼び、最終的には 40 版を重ねるほどになりました。

実はメルカトルも地図帳の出版について同じアイデアをもって作業を進めていたのですが、オルテリウスに先を越された形になりました。しかしメルカトルはオルテリウスを妬むことなく、賞賛の手紙を書き送っています。そして、彼自身は自らの作図法に則って独自の地図帳を出版する作業を進めていき、1585 年に第一巻が出版された後、最終巻は彼が死んでから 1 年後の 1595 年に息子のルモルド Rumold によって出版されました。全体で 107 図に及ぶ大地図帳でしたが、世間からの評価はあまり変わらなかったようです。

ところがこの風向きが 16 世紀末に変化し始めます。1599 年にエドワード・ライトという学者が、メルカトルが意図していた図形の変形を正当化する数学的根拠を明らかにしました後、ヨドクス・ホンディウスという人物が登場します。

彼はベルギーに生まれ、芸術家、彫刻師、および地図製作者として活躍していましたが、メルカトルが遺した仕事の重要性に気づき、1604 年にメルカトルの孫からメルカトルの地図帳の原版を購入しました。そして新たに 40 の地図を加え、1606 年に出版したところ、一気に情勢が変わります。世間の人々は今やメルカトルの意図したことを理解できる状態に至っており、ホンディウスが出版したメルカトルの地図帳は、オルテリウスの地図帳にとってかわり、その後 50 版を重ねることになりました。ここで注目したいのが、ホンディウスが出版の際にとった態度です。彼は、原版を買い取り、さらに自分で作成した地図もたくさん加えていたにもかかわらず、メルカトルに敬意を表して、メルカトルの地図帳として出版し、自分はあくまでも出版を行ったに過ぎないという立場をとりました。これにより、現在に至るまでメルカトルの評価が不動のものとなったのです。そして、ホンディウスのお蔭でメルカトルが後世に遺すことができたものは、地図の制作方法だけではありませんでした。メルカトルは、亡くなる前、自らの構想による地図帳が完成した暁には、ギリシア神話の神の名前に因んで『アトラス』というタイトルをつけてほしいと遺言していました。息子のルモルドが最終巻を出版した時に、遺言通り『アトラス』というタイトルを付けましたが、ホンディウスが再出版したとき、タイトルもメルカトルの遺志に忠実にそのまま引き継ぎました。現在地図帳のことをアトラスと言

いますが、それにはこのような由来があるのです。  
 本日このお話をしたのは、メルカトルとホンディウスの成したことが、「四つのテスト」を思い起こさせるからです。メルカトルは現在に至るまでその価値を失わない革新的なアイデアを得ましたが、生涯正当な評価を得られなくても、自ら真実と信じる場所に殉じて黙々と仕事を続けました：「真実かどうか」。その仕事を続けたのも、画期的な地図が世界を股にかける航海者たちのためになり、悲惨な事故や漂流を防ぐことができるからでした：「みんなのためになるかどうか」。地図帳のアイデアについてオルテリウスに先を越された時も、彼との友情を重んじ、賞賛と祝福の言葉を送りました：「好意と友情を深めるか」。ホンディウスは画期的な地図帳を自分の名の下に出版する商業的権利を有していながら、10年以上前に世を去っていたメルカトルの功績を重んじ、メルカトルの名で出版しました：「みんなに公平か」。

本日の会長挨拶は以上です。

- (3) 藤田 普ガバナー補佐(新潟南RC)挨拶
- (4) 高橋英樹次年度ガバナー補佐(新潟東RC)挨拶
- (5) 退会ご挨拶

・北越銀行新潟支店長 佐藤 厚さん

・セコム上信越(株)代表取締役社長 小松 良平さん

#### (6) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(得永 哲史国際奉仕委員長)

竹石 松次 君

青少年育成基金寄付発表(山田 隆一委員長)

樋熊 紀雄君

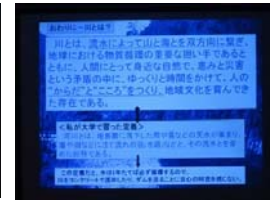
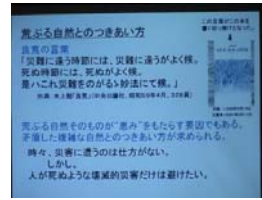
#### (7) ニコニコボックス紹介

- ・高橋 秀樹会長 ガバナー補佐、藤田さん、次年度ガバナー補佐 高橋さんのお二人を歓迎します。
- ・佐藤 厚君 主戦場、新潟を離れ長岡本丸勤務となりました。ご支援ありがとうございました。
- ・竹石 松次君 拙著、誇りたかき新潟の52人一般発売となりました。皆様には来週23日の例会でお配りします。まちがって本屋に行かないよう願います。
- ・樋熊 紀雄君 6月4日からブラジルサンパウロでの国際ロータリー年次大会に竹石 松次 会長エレクトと参加してまいりました。中国にロータリークラブが誕生したことがエピソードでしょうか。無事帰国出来、一安心です。後日、報告を致しますのでお楽しみにお待ちください。
- ・鈴木 滋弥君 娘の案内で家内と三人、東日本大震災地の南三陸町を訪ね細やかな支援をして来ました。"百聞は一見に如かず"と言うように皆様も機会がありましたら一度お尋ねになって下さい。自家用車で5時間ほどかかりました。

#### (8) 卓話「荒ぶる自然とのつきあい方ー日本人の伝統的自然観ー」

新潟大学名誉教授(ビュー福島潟名誉館長)

大 熊 孝 氏



- (9) 本日の出席率 66.67%
- 会員数96名(出席免除会員 7名)
- 出席者60名(出席免除会員1名を含む)
- (2週間前メーク後 91.58%)

#### ★★ ポール ハリス 語録より

ロータリー情報委員長 小山 楯夫  
 事業というものは、その批判者(調査者)を雇い、気前よく給与を支払います。批判者は、非難するために、大きな機械の中核を細かく調べ、その弱点を発見します。ロータリーの有給職員名簿には批判者はいません。批判者はみんな外部の人ばかりです。批判者の活動は、よいことばかりではありませんが、悪いことばかりというわけでもありません。ロータリーは建設的な批判をしてくれる部局が必要です。丁度、大企業の調査部のような何かです。ロータリーがその適正な運命を理解するとしたら、ロータリーは必ず進歩しなければなりません。時には革命が起こる必要があります。

(米国イリノイ州シカゴ 1930 年 RI 国際大会でのメッセージ)

偉大な運動家を研究すると、その発展は、個人の発展と似ているように思われます。形成期は初期です。若い心は、感受性に富み、成熟すると、落ち着いてきます。運動も年を経ると、定型化するようになります。伝統が正当な判断力の行使を妨げます。先例を尊重するようになり、先例が必要以上に重要性を帯びてきます。価値もないし、不合理なことが、今までそうであったからという理由だけで継続されます。存在理由が、かつてあったとしても今はないことが明らかでも誰も先例を敢えて破ろうとしません。形式に精神が伴わないようになっているのです。

(米国イリノイ州シカゴ 1930 年 RI 国際大会でのメッセージ)

6月23日の例会予定 卓話「美しき誤解」  
 ひとりシンクタンク「2010」代表 早川 和宏 氏